９月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和８年９月24日（木）		**場　所**	市役所本庁　災害対策本部室
開催時間	１６時００分　から　１７時００分まで			
出席者	教育長	髙森　賢一		
	教育委員	宮田　靖、甲斐　千尋、遠田　真央、廣池　加代子		
	参　与	松田　康寿、早瀬　誠一郎、岩佐　正文、日髙　弘子、岩切　隆人 吉田　尚良、尾方　農一、甲斐　保孝、多田　宏		

◎　開　会

髙森教育長が開会を宣した。　（16 時 00 分）

◎　会議録の承認

８月 26 日（水）に開催された８月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎　事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

・学生インターンシップ（8/31～9/11）、教育大学リーグ「ミーティング」
・延岡市民大学開校式
・延岡市小学校人権同和教育研修（伊形小授業公開）
・延岡市外国語教育に関する研修会・情報交換会
・人事異動方針説明会（北部教育事務所）

◆教育委員より以下の報告が行われた。

宮田委員）9 月 19 日、社会教育課が実施した「はらはらわくわくふるさと体験隊」の番外編活動に参加した。今回は「国スポ・障スポってなぁに？～バレーボールを体験しよう～」というテーマで、約 20 名の小学生が参加していた。バレーボールの実技と、宮崎国スポ・障スポリハーサル大会である天皇杯・皇后杯の九州ブロック大会の会場で、来年度延岡市で開催される大会の PR 活動の手伝いを行った。PR 用のうちわやビラを配ったり、積極的な声かけをしたりと、子どもたちは楽しそうな様子であった。子どもたちに感想を聞くと、「初めての経験で非常に楽しかった」と話し

ていた。大きな大会のPRという大切な活動を手伝うことで、子どもたちにとって良い経験になったと考える。こうしたボランティア的社会参加活動や社会体験活動は、学校の勉強だけでは得られないコミュニケーション能力や主体性に繋がる。今回参加した子どもたちも、誰かの役に立ち、周囲の人々に受け入れられたという自己肯定感に繋がったと考える。はらはらわくわくふるさと体験隊の支援体制は大変重要であり、社会体験活動の機会も必要であるため、大変良い企画であった。また、大会の観戦も子どもたちにとって良い機会となった。私自身も大変楽しかった。

廣池委員）先月の定例会で遠田委員も話題にしたが、９月は児童生徒の自殺が多い月であるという文科省のデータがある。９月15日、延岡市健康長寿課主催のゲートキーパー養成講座を受講した。子どもたちのSOSを早期に受け取るため、子どもの変化に気づくことを基本とした聞き方講座であった。その中で、延岡市内の小中学校でもこのSOS講座の講師派遣事業がスタートし、今年度14校が派遣を希望したという報告を受けた。これは素晴らしい気づきであると大変嬉しく思った。文科省の調査を見ると、自殺した児童生徒が置かれた状況では、原因不明が56.7％と約６割を占める。しかし、その中には必ず学校問題が挙げられている。どのような支援をするかというと、子どもたちの不安の重なりを見ることが重要であると言われた。例えば、学業のつまずきから自信を失い、友達との関係性も消極的になり、ひきこもり、家庭でも叱られることで居場所がないと感じてしまうなど、一つの問題から複合的な苦しみや不安に繋がるという分析であった。子どもたちが自ら死にたい理由を整理して説明できることはまずない。文科省は、学校だけで抱え込まず、教育、福祉、家庭が連携して早期に支援することを重視していると謳っている。関連して、SNSの扱いについても慎重になりがちであるが、今の子どもたちがSNS上でSOSのサインを出しているのも事実である。私自身も、普段コミュニケーションが取りにくい児童生徒がLINE上で自分の思いをしっかりと出してくれた経験がある。そういったことを体験すると、SNSの制限だけでなく、教育現場でICT教育と連携し、子供たちのSOSに対応していくことが重要であると考える。

遠田委員）前回話した不登校の息子について、最近は土日以外ゲームをしないようにし、夜９時には携帯も使えないようにして、それを守っている。オンライン授業を２時間半ほど受けているため、このまま見守っていきたい。最低限、国語力、つまり言葉の意味が分

かれば、本人がやる気になった時に何とでもなると考えており、その点を伝えていきたい。本人も苦しんでいる、悩んでいると思うが、うまくコミュニケーションをとり、サポートしていきたい。ニュースで見たが、宮崎県で、スポーツ観戦を希望する県立学校の生徒を欠席扱いとしない方針を宮崎県教育委員会が明らかにしたという報道があった。これは素晴らしいことであると考える。勉強も大事だが、スポーツ観戦も様々な気づきや感動を与える。欠席扱いとしないという位置づけは、スポーツが教育のもう一つの選択肢として認識されたことを示しており、画期的であると感じた。

甲斐委員）８月 30 日に高鍋美術館でピカソ展を見た。世界的な巨匠の作品を鑑賞し、ピカソの頭の中には何人もの人がいるのではないかと思うほど抽象的で理解し難い部分もあったが、やはり有名な画家であるため、多くの作品に感動した。９月 11 日の夕刊デイリーには、県内の 100 歳以上の高齢者が 1322 人（男性 149 名、女性 1173 名）と過去最多を更新したと掲載されていた。宮崎県は高齢化率 34.4％と、全国的に見ても高齢者の多い県である。私自身も高齢者の入り口にいるが、これからの人生を悔いなく生きていきたい。９月 24 日の NHK ニュースで、国際学力調査（OECD 主催）の結果が報じられた。日本は読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーにおいて上位に位置している。中国（上海など４都市のデータ）も上位にあり、上位５カ国の地域はシンガポール、マカオ、台湾、中国、日本であった。日本が上位に入っていることは喜ばしいが、中国の躍進も目覚ましい。学力だけでなく、様々な関心を持つことで新たな発見があると感じた。

◆各課からの事務報告

● 学校教育課長から、８月 27 日の防災教育に関する研修会や９月９日の桝元による伝統文化継承事業開始、８月期の生徒指導に関する状況等について報告があった。

◆補正予算報告

● 各課長より、９月議会に上程した補正予算の概要について報告があった。

◆９月議会一般質問報告

● 教育政策課長より、９月議会における一般質問について、４名の議員から、学校教育などに関する計 13 問の質問があった旨の報告があった。

◎　議　事

◆議案第 20 号　延岡市有料公園施設の広告表示に関する規則の制定

（アスリートタウン推進課）

●　アスリートタウン推進課長より、公共施設の有効活用や新たな財源確保の観点から、都市公園における有料公園施設への広告掲出を可能にするため、広告を掲出する有料公園施設及び使用料の額を定める「延岡市有料公園施設の広告表示に関する規則」を制定することについて説明が行われ、質疑の後、異議なく承認された。

◎　協議事項

◆新たな施設整備に伴う合宿・大会誘致について（アスリートタウン推進課）

●　アスリートタウン推進課長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。

延岡市には、5,000 人収容可能なアリーナや、本年度改修が完了した野球場がある。来年度の国スポ・障スポはもとより、今年度は柔道やバレーボール、ソフトボールのリハーサル大会も、新たに整備されたアリーナや野球場で初めて開催された。10 月は、これら施設でプロスポーツの公式戦やイベントが目白押しであり、アスリートタウン推進課は「Feel The Sports Nobeoka 暑い夏より、熱い 10 月がやってくる」と銘打ち、アスリートタウン延岡を強力に PR していく。これまでもメインアリーナでは体操や柔道の県大会が、のべおか waiwai スタジアムではプロ野球独立リーグの公式戦などが開催されている。スポーツを基軸とした交流人口拡大、観光振興、地域経済活性化のため、本年 5 月にのべおかスポーツ応援協議会が設立された。これは商工会議所、スポーツ協会、観光協会、旭化成などが参画し、行政と連携して大会・合宿を支援し、地域活性化に繋げることを目的としている。

来月 10 月に開催予定の主なプロスポーツの大会・イベントを紹介する。

卓球 T リーグ: 10 月 3 日、4 日に開催され、九州カリーナ（女子）と琉球アスティーダ（男子）が延岡で公式戦を行う。

ハンドボールリーグ H: 10 月 18 日に開催され、熊本ビューストピンディーズ（女子）がホームゲームを行う。国内最高峰リーグの公式戦が県内初開催であり、来年以降もホームゲームを開催してもらえるよう、多くの集客を目指し PR に努めている。被災地である熊本県民への元気と勇気を届けるため、会場での応援を促す。

みやざきフェニックス・リーグ: 今年で 23 回目を迎える。のべおか waiwai スタ

ジアムでは延岡初開催となる 3 試合が行われ、四国アイランドリーグ plus 選抜が登場する。同選抜は延岡に約 3 週間滞在し、野球教室や地域交流も予定されており、本市はスポーツ振興や青少年の育成を推進することを目標に包括連携協定を締結することとしている。

B.LEAGUE クラブ誘致･設立に向けた取り組み: 現在､オール宮崎で B.LEAGUE クラブ誘致・設立に向けた取り組みが進められている。本年 4 月には、宮崎県、延岡市、宮崎県バスケットボール協会、B.LEAGUE の 4 者が連携して誘致に取り組む姿勢を明確にした記者会見が行われた。B.LEAGUE クラブの誘致は、地域経済の活性化や交流人口の増加、子どもたちへの夢の提供に繋がる。市内全体の機運醸成を図るため、10 月 28 日 19 時から延岡総合文化センターでトークセッションを実施する。ジャパンラグビーリーグワン静岡ブルーレヴズの山谷拓志代表取締役社長らが登壇し、B.LEAGUE チーム誘致・設立の経験者から話を聞ける貴重な機会である。B.LEAGUE、自治体、バスケットボール協会等の一体的なアプローチと機運醸成が不可欠であり、アスリートタウン延岡からの B.LEAGUE チーム誕生を目指し、引き続き取り組んでいく。

最後に、静岡ブルーレヴズの延岡合宿も 10 月 23 日から予定されている。このように、来月 10 月は卓球、ハンドボール、野球、バスケットボール、ラグビーの公式戦、イベント、合宿が目白押しであり、多くのプロスポーツ関係者やファンが延岡を訪れる。多くの市民に会場へ足を運んでもらい、熱い 10 月となるよう、アスリートタウン推進課としても全力で取り組む。PR 用の短い動画も制作し、市内の大型商業施設や SNS 等で発信していく。

◎）　周知に協力したいが、PR 動画などのサイトをシェアできるか。

⇒）　PR 動画はシェア可能である。チラシ等も、必要であれば提供する。SNS でのシェアも可能であり、データとしても提供できる。

◎　その他

◆『延岡市史　史資料編　近世１』の刊行及び販売開始について

（文化財・市史編さん課）

●　文化財・市史編さん課長より、以下のとおり説明が行われた。

資料編は、古文書を現在の言葉に置き換えて見やすい形にしたものである。この資料編を検討した上で、さらにその中から、いわゆる通史としても活用できる。今回の「近世 1」は、現在の大河ドラマでも扱われている豊臣秀吉が九州に乗り出す頃から、国割りとなるまでの約 100 年間の延岡市に関する歴史資料を集約している。来月の教育委員会で、内容についてさらに詳しく説明する。宮本武蔵が殿様にあてた書状なども紹介しており、興味を持っていただければ幸いである。こ

の資料編「近世1」は、10月1日より一般販売を開始する予定である。1冊5,000円で販売する。

◆10月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

● 10月定例教育委員会については、10月28日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。 （17時00分）